

鎌田幸二
KAMADA KOJI

天有の輝 KAMADA KOJI

鎌田幸二展

2024 Ceramic Art Exhibition at Midorigaoka Art Museum in Nara, Japan

2024.1.7(sun) - 3.3(sun) ●入場無料

開館日 | 水・木・土・日曜日 11:00~16:00 (入館は15:30まで) 休館日 | 月・火・金曜日

会場 | 緑ヶ丘美術館・本館 → 〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘2731-10

URL | <http://mam-museum.com> <お問い合わせはFAXで:FAX 0743-85-7880>



Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館

結晶に宿る無限の変化の美。



唯一無二の宇宙を求めて。

「現代の天目」第一人者、
作陶50年の集大成がここに。

宇宙や星空に例えられる輝き。

中国から伝來した黒釉碗「天目」は、
時の茶人らに珍重されながら、製法には謎が多く、
神秘的な存在として現在まで人々を虜にしてきた。
鎌田幸二はその「碗の中の宇宙」に魅せられ、
約50年、京都で天目の作陶に挑み続けている。
古典を紐解きながら、独自に天目釉と焼成の研究を重ね、
「自分だけの天目」を追求し辿り着いた「耀き」は、
吸い込まれるように奥深く、包み込むようなぬくもりを醸し出す。
品格の中に慈愛が広がる、至高の現代天目。
1980年頃に登窯で焼成した貴重な作品から最新作まで、
半世紀に及ぶ作陶の集大成をぜひご高覧ください。

耀変油滴天目 茶盤



鎌田幸二(かまだこうじ)

●略歴《プロフィール》

- 1948 京都府京都市伏見区に生まれる
1966 京都府立桃山高等学校卒業
1968 作陶を志し、五条坂の陶芸家・清水正氏の指導を受ける
1971 京都府立陶工訓練校専攻科修了
同校指導員（京都府技師）となる
五条坂共同窯業「鐘嶋窯」にて天目の研究を始める
1973 第二回日本工芸会近畿支部展初 入選
第二十回日本伝統工芸展初 入選
1976 日本工芸会正会員に認定される
1977 京都府立陶工訓練校指導員を辞し作陶に専念する
1978 個展（セントラル・ギャラリー・大阪）
1980 五条坂共同窯休止（1979年）の為、自宅にガス窯を築窯
1987 第十六回日本工芸会近畿支部展 京都府教育委員会委員長賞 受賞
1988 重要無形文化財「鐵釉陶器」伝承者養成研修会にて清水卯一氏の
薰陶を受ける（以降「羽卯会」として研修会に参加）
1994 作陶二十五年 鎌田幸二展（京都高島屋・京都、岐阜高島屋・岐阜）
京都創作陶芸のながれ展 出品（京都府京都文化博物館・京都）
1997 天目・青磁二人展（ニューヨーク・アメリカ）
1999 作陶三十年 鎌田幸二展（日本橋高島屋・東京）
2002 陶・漆二人展（パリ・フランス）
2003 第三十二回日本伝統工芸近畿展鑑査委員
2007 第三十五回伝統工芸陶芸部会展審査委員
2008 作陶四十年 鎌田幸二展（大阪高島屋・大阪、ジエイアル名古屋高島屋・愛知）
2013 同志社大学にて講演（主催同志社大学歴史資料館）
2018 作陶五十年 天目 鎌田幸二展（大阪高島屋・大阪、日本橋高島屋・東京）

耀変紫光天目 茶盤



耀変翠青天目 茶盤



耀変油滴天目 茶盤



耀変翠光天目 茶盤



窯変銀漿天目 茶盤・銀漿天目掛分 水指・窯変銀漿天目 花瓶

交通アクセス

- 公共交通機関：〈地下鉄中央線・近鉄けいはんな線〉または〈近鉄生駒線〉〈近鉄奈良線〉で『生駒駅』下車。生駒駅「南口1番のりば」より奈良交通バス『中菜畑二丁目行き』乗車→『新旭ヶ丘バス停』下車、徒歩すぐ。
※ 当美術館には駐車場はございません。

【会場住所】〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 2731-10

緑ヶ丘美術館では新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた上で開催いたしております。今後の感染状況によりましては急遽、臨時休館や予定を変更する場合がありますので、ご来館の際には事前に当館ホームページをご確認いただきますようよろしくお願いいたします。